

研究主題：自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり
 ～みんなが楽しいと思える学校づくりを基盤とした生徒指導の推進～

◆ 本校の課題

- 学力・学習状況調査から見られる基礎学力の定着不足
- 規律意識の希薄さと学習意欲の低さのため起こる、学習規律成立の難しさ
- コミュニケーションスキルが身につけていないことでの、話し合い活動から全体の学びに結びつける難しさ

◆ 研究仮説

UDの視点に加え、生徒指導の三機能を指導の観点とし、学活の授業を軸として生徒が共同し学習課題に挑むような手立てをすれば、一人一人の良さを生かしながら学習に向かう意欲や能力を高めていくことができるのではないかと。

◆ 実践内容

(1) 校内研修

- 現職教育（月1回）
- 現職教育推進委員会（年6回）
- 校内研究授業（年4回(教科6、学活5)）

(2) 各部会の取り組み

① 生徒指導部会

- ・Q-U調査分析（年2回）による生徒理解
- ・ストレングスカードを利用した相互理解
- ・道徳教育の推進による温かな集団づくり

② 特活部会

- ・生徒自らが学級づくりの主人公となり、協調して目標に向かって挑戦、改良するPDCAサイクルの中で自己有用感を育てる。（一中学級力向上プロジェクト）

③ 教科研究部会

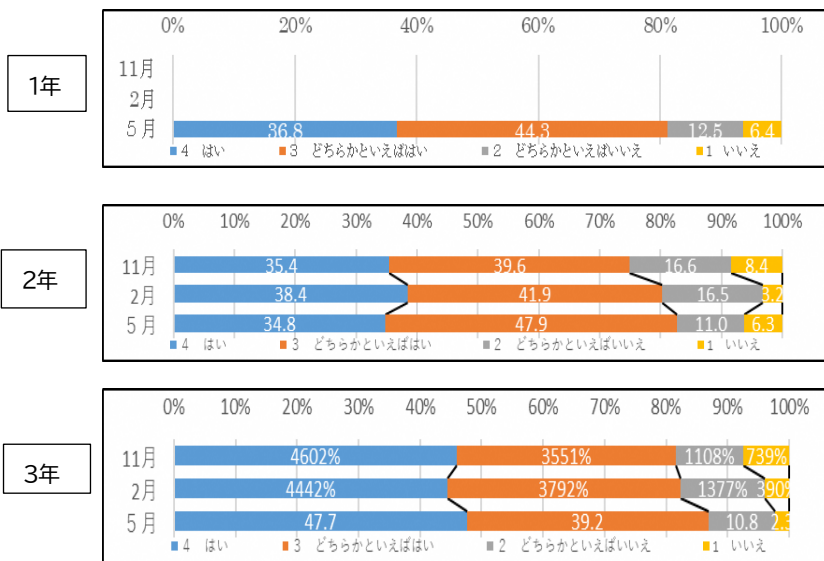
- ・UDの視点に加え、生徒指導の三機能を生かした手立ての考察と実施（授業改善）
- ・各教科での振り返りの実践
- ・学習課題、学習方法（ICT利用）の精選



◆ 成果と課題

生徒対象の授業アンケート結果より

「授業では自分の意見や考えを認めてもらえたと感じることができましたか」



昨年度から徐々に授業改善を行ってきており、本年度の研究方針を、次年度も継続する予定である。

聞いてくれる友人や教員がいてこそ、信頼して意見が言え、意欲的に学習に取り組めると考えられるので、引き続き温かく支持的ななかまづくりを基盤とした授業改善を行ってきたい。

教員の意識改革・研究推進に向け、現職教育をさらに充実したものとしたい。

(令和2年～令和3年の生徒アンケートの推移)